

山形美術館 平成 28 年度事業報告

概要

平成 28 年度の公益事業は、「日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展」を皮切りに、夏に山形新聞・山形放送 8 大事業「金子みすゞ・金澤翔子 ひびきあう詩と書」、秋には近代化する山形の姿を紹介した「統一山形誕生 140 年 絵画と写真に見る山形の近代」と「場所と記憶 永岡大輔×千葉奈穂子」、冬には初めて服部コレクションと吉野石膏コレクションを併せて展示した「山美のフランス絵画すべて見せます 吉野石膏コレクション・服部コレクション」を開催した。このうち、「金子みすゞ・金澤翔子」、「絵画と写真に見る山形の近代」、「山美のフランス絵画すべて見せます」は、「平成 28 年度文化庁 文化芸術グローバル化推進事業」の助成を受けた「山形県文化芸術創造発信事業」として実施した。さらに山形県民の美術振興を図る 3 県展、収蔵品展事業の収蔵品によるテーマ展「山形の近代洋画・県美展の先達たち」と常設展、また美術に関する創作活動を行っている個人・団体に対する 21 の展示施設貸与事業を行った。そのほか山形美術館キャンパスメンバーズ制度の導入や山形美術館鑑賞プログラムに新規に取り組んだほか、収蔵品の館外貸出による他機関との協力、大学生の実習受け入れ指導などを実施した。

これら公益事業関連の展覧会総入場者数は 102,351 人となった。平成 27 年度 82,405 人と比較すると、企画展事業と収蔵品展事業で 25,643 人の増加、展示施設貸与事業で 5,697 人の減少、合計で 19,946 人の増加となった。

収益事業では、企画展に合わせたミュージアムグッズの取り扱いを実施した。

法人運営および施設管理では、収蔵品管理のため、展示室・収蔵庫の温湿度等の維持管理に努めたほか、館内表示板およびホームページの多言語化により外国人来館者の利便性の向上を図った。

1. 公益事業

企画展事業

山形県民はじめ広く美術愛好者に国内外の優れた美術作品および関連資料を鑑賞する機会を提供する以下の事業を行った。

4月1日 5月15日 日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展

アニメーションの草創期から背景画家・美術監督として数々の名作に携わり、現在も活躍し続ける山本二三(にぞう)の 40 年に及ぶ画業を紹介した。会場には宮崎駿監督の「天空の城ラピュタ」「もののけ姫」、高畑勲監督「火垂るの墓」、細田守監督の「時をかける少女」などで山本が手がけたイメージボードや背景画に加え、旧県庁舎・文翔館をテーマにした新作「如月の文翔館」など、初期から最新作まで 222 点を展示した。会期中、4 月 2 日「山本二三トークショー&サイン会」、3 日「山本二三 背景画を描くデモンストラーション」、30 日ワークショップ「かんたんアニメで遊ぼう!」、5 月 5 日山形交響楽団メンバーによるフルート四重奏ミュージアムコンサートを実施。当館初のアニメーション展として、テレビや劇場映画ファンにとどまらない幅広い県民層に詩情あふれるアニメーション美術の魅力を紹介し、予想を上回る入館があった。

7月22日-8月28日 金子みすゞ・金澤翔子 ひびきあう詩と書

大正から昭和にかけて活動し 26 歳で他界した童謡詩人金子みすゞの生涯を振り返る資料と、ダウン症の天才書家金澤翔子の書作品など、合わせて 117 点を展示。みすゞの 3 冊の遺稿集や、「こだまでしょうか」「私と小鳥と鈴と」などのみすゞの詩に金澤翔子が純真な心で向き合って書かれた作品は、繊細でありながらエネルギーに溢れる作品として、多くの来場者の共感を得た。会期中、7 月 22 日金澤翔子サイン会、30 日山形大学大学院地域教育文化研究科大学院生によるワークショップ「親子で墨絵! カラフル和のランプ」、8 月 6 日ワークショップ「絵の具でトントン! ふしぎなせかい」、7 日「松倉とし子 金子みすゞを歌う」コ

コンサート、13日パフォーマンス「金澤翔子席上揮毫」を実施。新聞での特集連載も含め、二人の女性作家の詩と書の世界を多面的に紹介し、時を超えて知性と感性が響き合う展覧会とした。

9月3日-9月19日 第71回山形県総合美術展

山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門に搬入された595点を、能島和明(日本画)、佐藤哲(洋画)、三木俊治(彫刻)、藤原信幸(工芸)の4氏が厳正に審査。会場には、入賞・入選、審査員、委嘱、無鑑査の作品、東北芸術工科大学教員の招待作品を合わせ463点を展示した。4部門ともレベルの高さが目立ち、洋画部門では高校生が奨励賞を受賞するなど、自分らしさを追求する多彩な作品が目立った。今年で58回となるこども県展には、県内の園児、小中生から13,912点の応募があった。聖心女子大学教授・水島尚喜氏が、それぞれの発達段階に相應しい、子どもの感性や頑張りがよく表れている点を基準に審査し、3階に入賞・入選788点を展示。豊かな感性に溢れる会場は、幅広い多くの県民を対象とした秋の芸術シーズンの到来を告げるものとなった。

9月24日-10月2日 第41回山形県総合書道展

山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催した。今回は、漢字・かな・調和体・近代詩文・少字数・刻字・篆刻の7部門に、高校生から90歳代までの幅広い年代の書家・書道家から、一般公募261点、役員・会友367点を合わせ628点の作品が搬入された。県内の書家・植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、小野翠風、植松龍祥、秋葉煌洋、小池逢花の8氏による審査の結果、県知事賞など入賞13点、奨励賞15点、褒状30点、入選182点が厳正に選抜された。会場には入賞・入選作に審査員、役員、会友の書作を加え559点を展示。漢詩作品を中心に、古典を踏まえた流動美のある作品、文字の大小の変化や余白を生かした流麗な作品、墨色の変化と大胆で力強い筆勢を感じさせる作品など、各部門とも充実した内容となった。9月25日には荒木扁舟氏による作品解説会を実施し、若年層や書道初心者など、より多くの人に書道の魅力に触れてもらう機会とした。

10月14日-10月30日 統一山形誕生140年 絵画と写真に見る山形の近代

1876(明治9年)8月21日に山形県・置賜県・鶴岡県が統合して現在の山形県が誕生し、2016年で140年を迎えた。初代県令・三島通庸は、産業・土木、教育・医療分野の整備を推進し、現在の山形県の礎を築いた。本展では、東北初の写真館を開業し三島の「御用写真師」として活躍した菊地新学による写真、そして日本における洋画の開拓者・高橋由一による油彩画と版画、三島通庸の肖像写真や詠書など243点を展示。同一地点をとらえた写真、下絵、石版画を比較する展示によって、近代化する山形の姿を紹介した。10月16日には山形大学人文学部附属映像文化研究所主催による関連シンポジウム「近代都市の相貌 明治山形の写真・絵画・建築」、30日山形大学大学院地域教育文化研究科大学院生によるギャラリートークを実施。当時の最新技術であった写真や油彩画の特徴や意味を考えるとともに、現在の山形県の原点を振り返る機会とした。

10月14日-10月30日 場所と記憶 永岡大輔×千葉奈穂子

「絵画と写真に見る山形の近代」に合わせ、「場所と記憶」をテーマに山形ゆかりの現代作家の写真と映像作品を紹介した。山形市出身の永岡大輔の映像は、鉛筆で絵を描いては消す行為をそのまま記録したアニメーション映像であるが、本展では、積み上げた彫刻台に3作品を投影。展示ケース内の音響と合わせ、時間を意識させる展示空間となった。太陽の光で青くプリントする初期の写真技法(サイアノタイプ)を用いる酒田市在住の写真家・千葉奈穂子は、生まれ故郷岩手の空き家となった父の生家を20年にわたり撮り続ける「父の家」31点を展示した。会期中、10月16日に2名の作家によるアーティストトーク、23日山形大学大学院地域教育文化研究科大学院生によるワークシートをもとにしたギャラリートークを実施。身近にありながら失われゆく風景や、家族の記憶について、さまざまな観点から見直す機会とした。

12月1日-29年1月29日 山美のフランス絵画すべて見せます 吉野石膏コレクション・服部コレクション

1985年の本館新設に際して新たに収集した服部コレクションと、1991年から当館への寄託が開始された吉

野石膏コレクションを初めて一堂に紹介。ピサロ、モネら印象派やシャガール、ピカソらの作品など、19世紀半ばから20世紀後半までのフランス絵画の多様な作品155点を展示した。会期中、12月11日に安發和章氏(東北芸術工科大学准教授)による講演会「ピカソの「秘密の家族」図 《マリ=テレーズの肖像》(1937年)の考察」、18日森直義氏(修復家)による講演会「技法を読み解く 吉野石膏コレクション作品調査報告」、1月8日ミュージアムコンサート「山形交響楽団メンバーによる名画を楽しむニューイヤー・コンサート」(金管三重奏)を実施。山形におけるフランス絵画コレクションの魅力を感じてみたい機会とした。また、「YAMA コレ3 やまがた冬の4美術館めぐり」を本展会期に設定し、山寺、天童市内の美術館との連携による観光客らへの周知に取り組んだ。

2月23日-3月20日 第51回山形県写真展

山形県写真展は、県内の写真愛好家の質的向上と相互交流を目的に1967年に第1回展を開催し、今年で51回を迎えた。本展には、20歳代から80歳代までの584名から2,444点の一般公募作品が搬入。写真家の大西みつぐ氏による2日間にわたる公開審査によって、入賞12点、準入賞10点、努力賞10点、入選462点選ばれた。会場には公募作品に加え、審査員と無鑑査作品など、計518点を展示。被写体との交流や物語を感じさせるスナップ写真や、山形の歴史や地域性に溢れる祭事など、撮影意図が感じられる多彩な写真が並んだ。

収蔵品展事業

山形美術館では、日本の美術、山形県関係の美術、フランス近代美術の3分野について、美術作品および関連資料の収集と調査研究を進めている。これら収蔵品の一部を常設展示しているほか、28年度には以下のテーマ展を開催し収蔵品を紹介した。

6月8日-6月25日 収蔵品展 山形の近代洋画-県美展の先達たち

1946年に第1回展が開催された山形県総合美術展(県美展)の草創期の中心的な役割を担うことになった、大正から昭和初期にかけて県内洋画界の礎を築いた作家21人の油彩画と水彩画など43点を展示した。中央の美術団体に加え、米沢の「光原社」、山形の「毒地社」、鶴岡の「白虹(白鸞)社」など山形県内の美術団体の活動概要も合わせて紹介し、新しい絵画をめざして情熱を傾けた先達たちの活動を紹介した。

展示施設貸与事業

美術に関する創作活動を行っている個人および団体に対し、当館の展示室と展示用備品を貸与する事業を行った。28年度は、県水彩画展、春光会展、日展山形会展、北展、池坊山形支部展、山形県民ふれあい書道展、樺墨書院展、示現会山形展、毎日書道展東北山形展、読売書法展東北展、山形市芸文協総合展、墨華会書道展、山形大学造形芸術コース卒業修了制作展、山形デザイン専門学校卒業進級制作展、山形県健康福祉祭美術展など、21の展覧会を開催した。

その他

収蔵品を活用した事業や指導など以下の事業を行った。

1. 山形美術館設立50周年等感謝状の贈呈

山形美術館は2014年に開館50周年を迎えた。この間多くの方々のご支援・ご協力があったが、特に服部家、山長谷川家、吉野石膏株式会社・吉野石膏美術振興財団のご貢献は大きいことから、三者に対して感謝状を贈り、長年にわたり当館の運営を支え、本県の文化振興に寄与してきた功績を顕彰した。

服部家の故服部敬雄氏は、初代理事長・館長として山形美術館の設立・運営に中心的役割を果たすとともに、1985年の新館開館にあたり、ルオーやピカソ、シャガールやパリ画壇で活躍する現代作家の絵画60点、ロダン、プーセル、マイヨールの彫刻4点を収集。「服部コレクション」として公開されてから30周年を迎えた。山形銀行頭取を輩出している山長谷川家(現当主・吉茂氏)は、1968年より重要文化財の与謝蕪村「奥の細道図屏風」のほか、松尾芭蕉「出羽三山短冊」、横山華山「紅花屏風」など歴代が収集した日本美術の名品211点を当館に寄贈、当館の日本美術における収蔵品の柱となっている。吉野石膏株式会

社は1991年からピサロ、シスレー、モネ、ルノワールらの作品を寄託、2016年で25年を迎えた。印象派を中心に、バルビゾン派からエコール・ド・パリまでを網羅する「吉野石膏コレクション」は、吉野石膏美術振興財団からの作品と合わせ、現在152点が寄託されている。

2. 山形美術館キャンパスメンバーズ制度の導入実施

大学、短期大学、短期大学校及び専門学校などを対象に、学校教育等における当館の有効活用を目的とする「山形美術館キャンパスメンバーズ制度」を28年度より設けた。常設・企画展の常時入館無料のほか、本館を会場とする授業での解説指導を実施した。

3. 「YAMA コレ3 やまがた冬の4美術館めぐり」への参加

昨年度に引き続き、やまがた広域観光協議会が実施した「YAMA コレ3 やまがた冬の4美術館めぐり」に参加。山寺後藤美術館、天童市美術館、広重美術館との連携により、各美術館の周知と県内外の美術愛好家の周遊を促す取り組みとした。

4. 収蔵品館外貸出による他機関への協力

「メアリー・カサット展」(横浜美術館、京都国立近代美術館)、「没後25年 洋画家菅野矢一展」(致道博物館)、「動き出す! 絵画 ペール北山の夢」(東京ステーションギャラリー、和歌山県立近代美術館、下関市立美術館)、「北斎の富士」(2016年度まで全5会場)、「北斎漫画」(茅ヶ崎市美術館)、「江戸と江戸文化」(山寺芭蕉記念館)、「ゴッホとゴーギャン展」(東京都美術館、愛知県美術館)、「庄内の美術家たち 菅原梅里」(鶴岡アートフォーラム)、「ピカソとシャガール 愛と平和の讃歌」(ポラ美術館)など、他機関の企画展に対し収蔵品の貸出協力を行った。

5. 山形美術館鑑賞プログラムの実施

子どもたちが地域の文化に興味を持ち、実際に体験・参加する取り組みにより、地域への愛着と誇りの醸成を図ることを目的とする山形県の文化芸術体験プログラム支援事業の支援を受け、当館収蔵品を活用した鑑賞プログラムの開発を実施した。鑑賞の教材として作品カード「げいじゅつイマジン!」を作成した。

6. 美術教育普及活動への協力

8月6日に東北芸術工科大学芸術学部総合美術コースの松村泰三研究室とキッズ・アーティスト・プロジェクト「絵の具でトントン! ふしぎなせかい」を実施。また山形青年会議所OBの山形ビューティフルコミッションによる「児童絵画鑑賞プログラム」を11月5日に実施、幼児を対象に美術鑑賞のマナーと絵の見方を体験した。また、来館の児童生徒団体で希望がある場合、適宜館概要や作品解説を行なった。

7. 博物館実習生および文化コーディネーター実習生の受け入れと指導

博物館実習は、本年度東北芸術工科大学2名、石巻専修大学1名、計3名をのべ5日間ずつ受け入れ、美術館の機能と業務概要、資料の保存管理、地域における美術館のあり方などについて指導した。また山形大学大学院地域教育文化研究科の必修科目である文化コーディネーター実習においては、4名をのべ10日間ずつ受け入れ、教育普及ワークショップ等の企画運営を通じ、文化振興の実践的な理解とコーディネーター・ファシリテーターとしての資質向上を図る指導を行った。

8. 美術講座の開催

作品に込められた意味や時代背景など、美術の歴史を学ぶ機会として「山美の美術講座」を開催した。元木幸一氏(美術史家・山形大学名誉教授)を講師に、「笑いの西洋美術史」をテーマに、12月10日、17日、24日、1月7日の計4回開催した。

9. 吉野石膏コレクションの調査

吉野石膏コレクション作品に対する状態調査を森絵画保存修復工房と共同で5月と7月の2回、のべ6日間実施した。作品1点ごと、作品の表裏、支持体と額の確認に加え、紫外線や赤外線による撮影などによる作

品調査を行なった。今後の作品研究やコレクション展のテーマの立案や修復計画の基礎資料とした。

10. 収蔵作品の調査・修復

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターとの共同調査に基づき、高橋由一「鮭」(1965 年度寄託)の化学調査、ならびに渡辺華山「溪澗野雉図」(山形県指定有形文化財、長谷川コレクション、1968 年度収蔵)の修復処置を実施した。「鮭」については、光学調査と顔料の元素分析により、他の作品との比較検討が行われ、高橋由一の技法上の特質を理解する機会とした。「溪澗野雉図」については、横折れが見られた作品の状態に最適な処置を検討の上修復を実施し、作品本来の安定性を回復した。

収蔵品展事業による、本年度新収蔵品は寄贈 8 件である。椿貞雄の 1927 年第 1 回大調和展出品作、山形ゆかりの武田敏雄と村山鎮雄の油彩画、さらに桜井祐一と鏡恒夫の彫刻などを受贈した。

今期末での寄託品を除く収蔵品件数は、基本財産収蔵品の一般正味財産(購入)505 件、指定正味財産(寄贈)1,047 件、合計 1,552 件となった。

2. 収益事業

山形城址が眺められる休憩室に有料の飲料自動販売機を設置し、作品鑑賞後に気軽に利用できる空間とした。また美術関係の書籍やグッズを販売するコーナーでは、展覧会図録や関連するグッズ、山形ゆかりの作家による工芸品などの販売物を引き続いて取り扱った。

3. 法人運営および施設管理

収蔵品や企画展開催中の作品管理のための温湿度等の環境管理のほか、施設の維持管理に努めた。また平成 28 年度山形県インバウンド受入態勢整備事業の補助を受け、1 階休憩室への無料 wi-fi 設置と館内外の表示板を日本語・英語併記に更新したほか、当館ホームページに英語、中国語[繁体字]、韓国語のページを追加し、外国人や来館者への利便性の向上に努めた。さらに、老朽化した 2 階男子トイレ便器のセンサーの更新を行った。

4. 成果と課題

平成 28 年度は、当館での新たな分野となるアニメ関連の企画展開催のほか、「山形県文化芸術創造発信事業」の継続実施、さらに山形県誕生 140 年を契機とするテーマ展や収蔵品のフランス絵画を活用した自主企画、恒例の県内の美術愛好家を対象とする 3 県展、また収蔵品展も含めた公益事業を予定通り実施し、前述のとおり各事業の目的を達成できた。また本年も「YAMAコレ3 やまがた冬の4美術館めぐり」による他館との連携や、ホームページでの企画展やイベントなどの情報更新により、広域からの観光客の取り組みを試みた。東日本大震災以後落ち込んでいた入館者数は、平成 22 年度以来となる 10 万人を回復した。春の山本二三展での入館者数の伸びに加え、キャンパスメンバーズ制度を利用した学生の入館者の増加が主な要因と考えられる。

今後も引き続き、優れた芸術に触れる場所、県民の創造活動の場として、幅広い年齢層および地域のニーズの把握に努め、企画展の実施ならびに、企画内容・対象者に応じた多様な教育普及事業や、地域機関との連携を図るとともに、効果的な広報活動に努め、地域に親しまれる美術館活動を推進していきたい。

平成28年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

[企画展]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
日本のアニメーション 美術の創造 山本二三展	4月1日～ 5月15日	19,792	2,949	2,165	3,514	28,420	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、県教委、山形市、市教委、県芸術文化協会、市芸術文化協会、絵映舎、神戸新聞社	4月2日作家によるトークショーとサイン会、3日作家デモンストラーション、30日山形大学大学院地域教育文化研究科の協力によるワークショップ、5月6日山形交響楽団メンバーによるミュージアムコンサート。
金子みすゞ・金澤翔子 ひびきあう詩と書	7月22日～ 8月28日	10,796	375	615	2,006	13,792	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、山形市教委、県芸術文化協会、山形市芸術文化協会、毎日新聞社、金子みすゞ著作権保存会、金子みすゞ記念館、金子みすゞ顕正会、JULA出版局、金澤翔子記念館	7月22日作家サイン会、30日山形大学大学院地域教育文化研究科の協力によるワークショップ、8月6日東北芸術工科大学総合美術コースの協力によるワークショップ、8月7日松倉とし子によるコンサート、8月13日作家席上揮毫。
第71回山形県 総合美術展	9月3日～ 9月19日	3,877	890	439	2,328	7,534	山美、山新、山放、県美術連盟、山形県、県生涯学習文化財団、市教委、県芸術文化協会、県造形教育連盟、べんてる株式会社	能島和明(日本画)、佐藤哲(洋画)、三木俊治(彫刻)、藤原信幸(工芸)の4氏による審査。第58回こども県展を併催。
第41回山形県 総合書道展	9月24日～ 10月2日	409	132	18	1,217	1,776	山美、山新、山放、山形県総合書道会、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、山形県書道連盟、県芸術文化協会	植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、小野翠風、植松龍祥、秋葉煌洋、小池蓮花ら8氏による審査、10月2日授賞式。
統一山形誕生140年 絵画と写真にみる 山形の近代	10月14日～ 10月30日	767	245	14	567	1,593	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、山形大学人文学部附属映像文化研究所	10月16日山形大学人文学部附属映像文化研究所主催シンポジウム、30日山形大学大学院地域教育文化研究科の院生によるキャラリートーク。
場所と記憶 永岡大輔×千葉奈穂子	10月14日～ 10月30日	767	245	14	567	1,593	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	10月16日永岡大輔と千葉奈穂子によるアーティストトーク、23日山形大学大学院地域教育文化研究科の院生と担当学芸員によるキャラリートーク。
山美のフランス絵画 すべて見せま す吉野石膏コレク ション	12月1日～ 1月29日	3,159	367	122	1,399	5,047	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、吉野石膏株式会社、吉野石膏美術振興財団、森絵画保存修復工房	12月11日芸工大・安藤和彰氏、12月18日修復家・森直義氏による講演会、1月8日山形交響楽団メンバーによるミュージアムコンサート。
第51回山形 写真展	2月23日～ 3月20日	1,796	96	69	3,065	5,026	山美、山新、山放、山形県写真連盟、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、県写真材料商組合	2月11、12日写真家・大西みつぐ氏による公開審査、3月20日授賞式。
企画展 計(A)		41,363	5,299	3,456	14,663	64,781		

平成28年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

【収蔵品展など】

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
収蔵品展 山形近代洋画 展の先達たち	6月8日～ 6月25日	523	965	39	330	1,857	山美、山新、山放、山形市	収蔵品の中で大正から昭和初期に活躍した県内の洋画44点を紹介。
常設展示のみ ・巨匠の広場 ・吉野石膏コレクション室 ・新海竹太郎/竹蔵彫刻室 ・長谷川コレクション室 ・彫刻の小部屋	5月18日～ 5月29日	1,984	22	-	719	2,725		
	5月31日～ 6月5日	90	47	2	3	142		
	6月29日～ 7月5日	701	35	29	701	1,466		
	7月6日～ 7月10日	137	30	23	22	212		
	7月13日～ 7月17日	220	48	10	704	982		
	7月18日	38	16	2	6	62		
	10月5日～ 10月9日	222	6	65	1,816	2,109		
	10月10日	45	-	1	6	52		
	11月2日～ 11月6日	210	7	44	1,334	1,595		
	11月9日～ 11月27日	315	149	31	76	571		
	2月1日～ 2月19日	199	24	10	44	277		
3月23日～ 3月28日	87	18	12	24	141			
収蔵品展計(B)		4,771	1,367	268	5,785	12,191		

館主催展計(C=A+B)		46,134	6,666	3,724	20,448	76,972		
--------------	--	--------	-------	-------	--------	--------	--	--

【展示施設貸与事業など】

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
山形県水彩画会展	5月18日～ 5月22日	1,128	-	-	-	1,128	山形県水彩画会	
春光会展	5月18日～ 5月22日	1,002	-	-	-	1,002	春光会	
日展山形会展	5月18日～ 5月29日	1,984	22	-	719	2,725	日展山形会、山形新聞・山形放送	
創琢書道展	6月2日～ 6月5日	585	-	-	-	585	創琢書道会	
北辰(会員・会友)	6月8日～ 6月12日	230	124	33	514	901	東北現代美術協会	

平成28年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
池坊山形支部 創立70周年記念展	6月18日～ 6月19日	2,081	8	-	-	2,089	華道家元池坊山形支部	
山形県民書道 ふれあい書道展	6月29日～ 7月3日	701	35	29	701	1,466	山形県民書道会	
樺墨書院展	7月6日～ 7月10日	1,449	-	-	-	1,449	樺墨書院	
示現会山形展	7月13日～ 7月17日	220	48	10	704	982	示現会、示現会山形支部	
毎日書道展 東北山形展	10月5日～ 10月9日	222	6	65	1,816	2,109	毎日新聞社、毎日書道会	
MOA美術館山形県 児童作品展	10月29日～ 10月30日	457	-	-	-	457	MOA美術館山形県児童作品展実行委員会	
読売書法展東北展	11月2日～ 11月6日	210	7	44	1,334	1,595	読売新聞社、読売書法会	
北展(公募)	11月9日～ 11月13日	207	12	41	504	764	東北現代美術協会	
山形市芸文協会 総合展覧会	11月9日～ 11月13日	2,951	-	-	-	2,951	山形市、市教委、市芸術文化協会	
墨華会書道展	11月17日～ 11月20日	1,083	-	-	-	1,083	墨華会	
東邦書道会全国展	11月24日～ 11月27日	493	-	-	-	493	東邦書道会	
翔龍会全国書道展	12月2日～ 12月4日	370	-	-	-	370	翔龍会	
山形大学造形芸術コース 卒業修了制作展	2月1日～ 2月5日	446	-	-	-	446	山形大学地域教育文化学部文化創造学科造形芸術コース	
誠筆書展	2月2日～ 2月5日	1,004	-	-	-	1,004	誠筆会	
山形デザイン専門学校 卒業進級制作展	2月15日～ 2月19日	810	-	-	-	810	山形デザイン専門学校	
山形県健康福祉祭 美術展	2月16日～ 2月19日	970	-	-	-	970	山形県、山形県社会福祉協議会、山形県老人クラブ連合会	
展示施設貸与事業計(D)		18,603	262	222	6,292	25,379		

全 展 覧 計 (E=C+D)		64,737	6,928	3,946	26,740	102,351		
-----------------------------	--	--------	-------	-------	--------	---------	--	--

平成 28 年度新収蔵品リスト

平成 29 年 3 月 31 日現在

寄贈

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
椿 貞 雄	朝 子	1927	キャンバス・油彩	51.7×61.0
村 山 鎮 雄	夏 の 蔵 王 山 麓	2011	キャンバス・油彩	91.0×116.7
村 山 鎮 雄	蔵 王 山 麓 ・ 冬 (1)	2014	キャンバス・油彩	91.0×116.7
武 田 敏 雄	椿	2016	キャンバス・油彩	27.3×22.0
桜 井 祐 一	座 る	1975-78	ブ ロ ン ズ	高 14.7×幅 7.0 奥行 7.2
鏡 恒 夫	す わ る 娘	1966	木 彫	高 115.2×幅 53.0 奥行 47.0
渡 邊 誠 洲	敦煌旅情「浪漫の香音神」	1980 年代	紙 本 ・ 墨 書	125.6×96.0
石 飛 博 光	永 六 輔 の 句	2016	紙 本 ・ 墨 書	69.8×137.2

以上の美術品 8 件を基本財産収蔵品(不可欠特定財産)とする

平成 28 年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借 受 館 又 は 借 受 者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
高 橋 由 一	鮭 図	福 岡 市 美 術 館	物・語- 近代日本の静物画-	5/26-7/27
カ サ ッ ト	マリー=ルイズ・デュラン=リュエルの肖像	横 浜 美 術 館 京 都 国 立 近 代 美 術 館	メアリー・カサット展	6/3-12/13
マ ネ	イザベル・ルモニエの肖像	ポ ー ラ 美 術 館	Modern Beauty フランスの絵画と化粧品 ファッションにみる美と近代	6/6-9/16
岸 田 劉 生	麗子坐像 寒山拾得図	米 沢 市 上 杉 博 物 館	生誕120年 椿貞雄 - 椿貞雄と岸田劉生 -	6/16-8/25
マ ル ケ	コンフラン=サント=オノ リーヌの川船 ロールポーズの風景	ホ テ ル ・ オ ー ク ラ	第22回秘蔵の名品アートコレクション展「旅への憧れ、愛しの風景- マルケ、魁夷、広重の見た世界-」	7/16-8/28
菅 野 矢 一	裸 婦 など10点	致 道 博 物 館	没後25年 洋画家 菅野矢一展	8/19-10/7
モ ネ	サンジェルマンの森の中で テムズ川のチャリング・ クロス橋	ア サ ヒ ビ ー ル 大 山 崎 山 荘 美 術 館	うつくしい暮らし、あたらしい響き クロード・モネ	8/24-12/18
ド ピ ゴ 椿	踊り子たち、ピンクと緑 ルーアンのエピスリー 通り、朝、雨模様 雪原で薪を集める人びと 道	東京ステーションギャラリー 和歌山県立近代美術館 下 関 市 立 美 術 館	動き出す！ 絵画 ペール北山の夢	8/24-11/9, 1/19,3/25
葛 飾 北 斎	北 斎 漫 画 200点	茅 ヶ 崎 市 美 術 館	北 斎 漫 画 展	9/7-11/10
谷 文 晁	慈母観音図 など3点	山 寺 芭 蕉 記 念 館	芭蕉と江戸文化	9/15-11/18

平成 28 年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借受館又は借受者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
モ ネ	ヴェトウイユ サン=マルタン 島 からの眺め	東 京 都 美 術 館 愛 知 県 美 術 館	ゴッホとゴーギャン展	9/25-H29.4/7
セザンヌ ルノワール ヴラマンク	サンタンリ村から見たマル セイユ湾 庭で犬を膝に抱いて読書す る少女 花 瓶 の 花	和歌山県立近代美術館 下 関 市 美 術 館	動 き 出 す ! 絵 画 ペ ー ル 北 山 の 夢	11/9-1/19
ピサロ マティス	モンフォーコーの冬の池、雪 の効果 白と緑のストライプのブラウス を着た読書する女性	下 関 市 美 術 館	動 き 出 す ! 絵 画 ペ ー ル 北 山 の 夢	1/19-3/25
菅原梅里	如 来 座 像 楼 閣 山 水 図	鶴岡アートフォーラム	庄内の美術家たち12 菅原梅里展	1/24-3/14
シャガール	パイプを持つ男	ポ ー ラ 美 術 館	ピカソとシャガール - 愛と平和の讃歌	2/24-
マティス	花とコーヒーカップ	あべのハルカス美術館	マティスとルオー - 友情50年の物語 -	3/14-